

# コミュニケーション 一切なしで 事前通知

北上新幹線保線技術センターにおいて、事前通知書前のコミュニケーションや、組合員・社員の生活設計・キャリアプランを把握することなく事前通知書を渡している現実が明らかになりました。このような納得感が全くない人事異動は東労組として当然納得することはできません。

2020年4月1日からスタートしたジョブローテーション施策について、私たちJR東労組はさまざまな場でこれまで議論してきました。2020年申5号では、「**納得感を得られるように異動の目的を理解して異動してもらう**」ようにやっていく」「日々のコミュニケーションによって把握していく事は変わらない」こと、2020年申10号では「異動というのは事前通知書を渡すことで正式な通知となるが、**いきなり渡すことは会社としても社員のことを考えれば丁寧ではない**」「具体的な話は**事前通知を出す前にコミュニケーションを取る中で話をしていく**」等を確認してきています。

これに加えて、**盛岡地本内の他の工務職場においても、「事前通知書を出す前の意識付けが、事前通知を渡す前日に行われている」**ことも明らかになっています。これらの事象はこの間の労使議論を形骸化するだけでなく、社員のやりがいやモチベーション低下、離職者を多く発生させることに繋がりがかねません。

発行責任者 佐藤英樹

## 緑の風 NEWS

East Japan Railway Workers' Union 2022年9月18日 No. 39



JR東労組  
JR東労組ホームページ

# 意識付け 本人希望 なし

## 北上新幹線保線技セで強制配転が発生

9月16日、北上新幹線保線技術センターの組合員に10月1日付で八戸新幹線保線技術センターへの転勤の事前通知が意識付けもなく出されました。納得感がない当該組合員は組合員だからできる「簡易苦情処理」を提出しました。

### 問題点

- 1、事前の意識付けがなく、事前通知が出された
- 2、本人希望は北上地区での「出向」が「在来保線」
- 3、他の社員は事前の意識付けがあった。
- 4、在籍の長い他の社員が八幹保を希望している中で、  
在籍3年2カ月での転勤
- 5、疑問をもった本人が現場長と話をした際の内容

生活があるのに…  
まるでモノの扱い…



### 本人と現場長とのやり取り(一部)

本人:他の社員は事前情報があったが、自分は発令通知が出るまで事前情報が全くなかった。規程上はいいとしても、差別や人間味が無いと感じる。社員一人ひとりの生活がある中で、事前に相談が無いのはひどいと感じる。

現場長:理由は無。14日前であれば異動の準備ができる。差別を感じるのは勝手である。

本人:転勤してまでも働きたい会社だとは思えない。

現場長:当社は異動ありきである。転職は個人の判断である。

**異常な人事異動を許さず、連帯して共にたたかおう!**

これまでの労使議論を再確認し、あるべき経営姿勢へと是正していくために、組合員・社員で議論しよう!